

# 2009年度入試の出題傾向

学校法人 河合塾専任講師 佐藤 裕 治

## 1. はじめに

現行課程での入試4年目、新学習指導要領が示されるなかで、2009年度のセンター試験や国公立大二次・私立大の入試問題はどのような特徴があったのか、その出題傾向と受験生の弱点を分析した。

## 2. センター試験の出題傾向

### ■大問の構成は定着、図の判読が増加

過去6年間の地理Bの出題分野(表1)をみると、現行課程に移行した2006年度以降、自然環境、資源と産業、生活と文化、地域調査、地球的課題、地誌で大問が構成されている。例年との違いとしては、マーク数が1個増えて過去10年間で最も多かった(1996年度の38個以来)ことと、産業分野で工業についての出題がなかったことがある。地理Aでは、地理的基礎事項、地域調査(7問中6問が地理Bと共通)、現代世界の結合、地誌、地球的課題の大問5題で、マーク数は36と昨年と同様であった。

解答と素材の形式(表2)をみると、地理Bでは地図、グラフ、模式図などを使った設問がここ10年でもっとも多く、2年ほどなかった写真の判読も出題され、単純な統計表の問題は少なかった。地理Aでは、地理的基礎事項に関する問題では地図から該当する地点を判定させるような単純な解答形式がみられるものの、全体的に図や写真が多用され、資料を判読する力が求められる問題が多かった。

表1 地理B(本試)出題分野別一覧

|            | 2004 | 2005 | 2006 | 2007 | 2008 | 2009 |
|------------|------|------|------|------|------|------|
| 自然環境       |      | ◎    | ◎    | ◎    | ◎    | ◎    |
| 地形         | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |
| 気候         | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |
| 植生・土壌      |      |      | ○    | ○    |      | ○    |
| 自然災害       |      |      | ○    | ○    |      |      |
| 資源と産業      |      | □    | ◎    |      | ◎    |      |
| 農業         | □    |      | ○    | ○    | ○    | ◎    |
| 林業・水産業     | ○    |      | ○    | ○    |      | ○    |
| エネルギー・鉱産資源 | ○    | ○    | ○    |      | ○    |      |
| 工業         | ○    | ○    | ○    | ◎    | ○    |      |
| 生活と文化      |      |      |      |      |      |      |
| 村落・都市      | ◎    | □    | ○    | ◎    | ◎    | ◎    |
| 文化・衣食住     | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |
| 消費・余暇活動    | ○    |      |      |      |      | ○    |
| 地域調査       | ◎    |      | ◎    | ◎    | ◎    | ◎    |
| 地図・図法      | ○    | ◎    |      |      | ○    |      |
| 地形図        | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |
| 国際交流       |      |      | ○    |      |      |      |
| 国家・国家群     |      |      |      |      |      |      |
| 交通・通信      |      |      | ○    |      |      |      |
| 貿易・直接投資・援助 | ○    |      |      | ○    | ○    | ○    |
| 地球的課題      |      | ◎    | ◎    | ◎    | ◎    | ◎    |
| 人口・食料問題    | ○    | ○    |      | ○    | ○    | ○    |
| 都市・居住問題    |      | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |
| 環境・エネルギー問題 | ○    | ○    | ○    |      | ○    |      |
| 民族・領土問題    | ○    |      |      | ○    | ○    |      |
| 地誌         | ◎    | ◎    | ◎    | ◎    | ◎    | ◎    |
| アジア        | ●    | ●    |      | ○    | ●    |      |
| アフリカ       | ▲    | ○    | ○    | ●    |      |      |
| ヨーロッパ      | ▲    | ●    |      | ○    |      | ○    |
| C I S      |      |      |      |      | ○    |      |
| 北アメリカ      |      |      |      | ○    |      | ●    |
| 南アメリカ      |      | ○    | ●    |      | ○    |      |
| オセアニア      | ▲    |      |      |      |      |      |
| 日本         | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    | ○    |
| 複合地域       | ●    |      |      |      |      |      |
| 平均点        | 62.1 | 70.2 | 65.1 | 58.4 | 66.4 | 64.5 |

◎大問のテーマ(□複合テーマ) ●地誌で取り上げられた地域(▲複合地域)  
○小問のテーマ・地域

表2 過去10年間のセンター試験(地理B)の解答形式と素材形式

|               | 地理B    |       |        |       |       |       |       |        |       |       | 地理A   |
|---------------|--------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
|               | 2000年  | 2001年 | 2002年  | 2003年 | 2004年 | 2005年 | 2006年 | 2007年  | 2008年 | 2009年 | 2009年 |
| 正誤文判定*1       | 15(18) | 14    | 8(10)  | 9     | 16    | 19    | 14    | 12(13) | 15    | 15    | 15    |
| 組合せ解答*1       | 6      | 6(7)  | 14(15) | 13    | 12    | 10    | 13    | 19     | 11    | 12    | 11    |
| 図<br>(内地形図*2) | 20     | 16    | 19     | 21    | 18    | 18    | 18    | 22     | 20    | 27    | 21    |
| 表             | 7      | 5     | 7      | 5     | 6     | 3     | 3     | 4      | 4     | 2     | 2     |
| 写真*3          | 1(4)   | 1(1)  | 2(7)   | 3(3)  | 1(3)  | 0     | 1     | 0      | 0     | 2(5)  | 3(7)  |
| マーク数          | 36     | 35    | 35     | 35    | 35    | 35    | 35    | 36     | 36    | 37    | 36    |
| 平均点           | 58.2   | 63.6  | 66.3   | 55.0  | 62.1  | 70.2  | 65.1  | 58.4   | 66.4  | 64.5  | 54.7  |

\*1括弧内はマーク数を示す。\*2地勢図を含む。\*3括弧内は写真の枚数を示す。

■受験生の弱点-

正答率の低い問題

河合塾が毎年実施している再現答案による正答率でみると、例年正答率が40%を下回る問題が1割程度あるが、2009年度(表3)は37問中3問がこれに該当した。中でも正答率20%程度にとどまったのがセンター地理B第2問問1と第5問問3(例題1)である。前者(解答番号9)は地域調査に関する問題で、20万分の1の地勢図から地形を判読するものであった。中海にある干拓用護岸道路でつながる大根島を「陸繋島」とする文章を誤りと判定するものだが、20万分の1の縮尺では見分けにくいこともあり、上位層でも半数以上が中海に注ぐ飯梨川の三角州を誤りとした。最も正答率が低かったのがカナダの3都市の産業に関する例題1である。このように具体的な都市の特徴に関する知識が欠けているのが最近の受験生の傾向である。トロントがカナダの人口最大であるという認識はなく、地図で五大湖に面することが示されていることを頼りに、水運をキーワードと考えたようで上位層・中位層・下位層とも①、④を選んだものが、正解の③を選択したものより多かった(表4)。

表4 例題1のレベル別マーク率(%)

|   | 上位層<br>~55.0 | 中位層<br>54.9~<br>45.0 | 下位層<br>44.9~ |
|---|--------------|----------------------|--------------|
| ① | 33.8         | 32.6                 | 35.8         |
| ② | 4.4          | 14.3                 | 21.8         |
| ③ | 30.2         | 14.6                 | 12.3         |
| ④ | 31.5         | 38.3                 | 29.8         |

※正解は③。レベルの数は偏差値。  
①~④以外のマークや無回答があるため合計は100%にならない。

表3 再現答案による設問別正答率(河合塾調べ)(2009年度センター試験地理B)

| 設問番号 | 解答番号 | 正答率  | 設問番号 | 解答番号 | 正答率  | 設問番号 | 解答番号 | 正答率  |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 第1問  | 1    | 85.0 | 第3問  | 15   | 83.8 | 第5問  | 27   | 53.5 |
|      | 2    | 39.7 |      | 16   | 54.2 |      | 28   | 83.8 |
|      | 3    | 52.9 |      | 17   | 71.4 |      | 29   | 21.2 |
|      | 4    | 66.4 |      | 18   | 83.0 |      | 30   | 49.8 |
|      | 5    | 62.8 |      | 19   | 86.9 |      | 31   | 78.4 |
|      | 6    | 73.4 |      | 20   | 88.7 |      | 32   | 68.0 |
|      | 7    | 92.4 |      | 小計   | 79.4 |      | 小計   | 61.3 |
|      | 8    | 57.6 |      | 21   | 52.6 |      | 33   | 79.8 |
| 小計   | 66.8 | 22   | 55.6 | 34   | 75.9 |      |      |      |
| 第2問  | 9    | 22.6 | 第4問  | 23   | 60.8 | 第6問  | 35   | 72.5 |
|      | 10   | 81.2 |      | 24   | 41.9 |      | 36   | 76.5 |
|      | 11   | 92.2 |      | 25   | 58.8 |      | 37   | 45.8 |
|      | 12   | 73.7 |      | 26   | 80.0 |      | 小計   | 68.9 |
|      | 13   | 88.9 |      | 小計   | 58.3 |      | 合計   | 68.4 |
|      | 14   | 90.6 |      |      |      |      |      |      |
|      | 小計   | 75.5 |      |      |      |      |      |      |

注) サンプル数は2566人(現役生1905人、高卒生661人)。  
サンプルの平均点は、地理B受験生全体の平均点(64.45)より4.0点高い。  
大問ごとの小計、合計は得点率を示す。

例題1 センター試験 地理B 第5問 問3

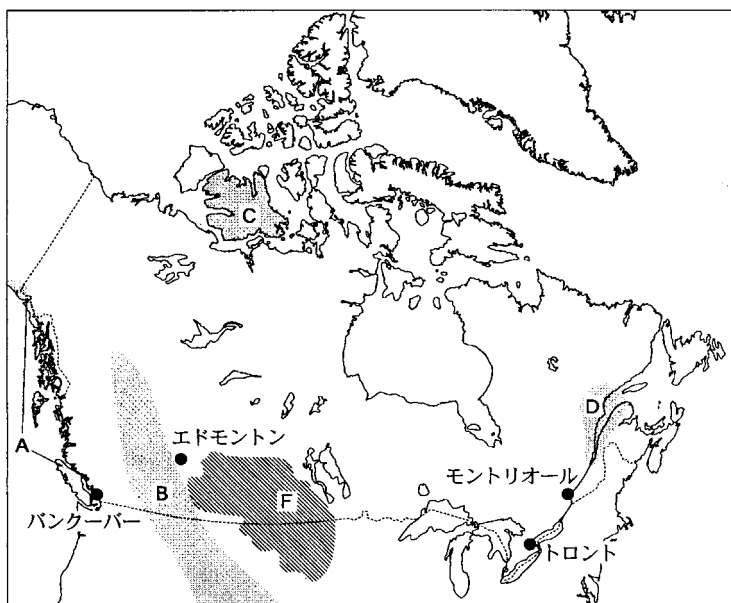


図1

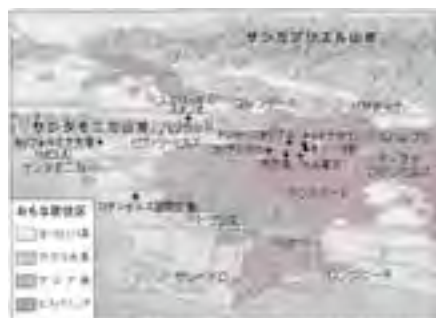
問3 次の①~④の文は、図1中のバンクーバー(ヴァンクーヴァー)、エドモントン、トロント、モントリオールのいずれかの都市の産業について述べたものである。トロントについて述べた文として最も適当なものを、次の①~④のうちから一つ選べ。 29

- ① 内陸水運の起点に位置する港湾都市であり、繊維をはじめとする多様な工業が発達した。
- ② 豊富な石油・天然ガスなどの資源が周辺にあり、化学工業が発達したほか、穀物の集散地ともなっている。
- ③ カナダ最大の人口を有し、金融・保険業の中心地となっている。
- ④ 水運・陸運の要衝であり、農林水産物・鉱産物の集散地として発展した。

\*問題文中の地形図や図は縮小してあります。また問題文は、試験問題のままですので、問題文と図の位置が合っていないところがあります。

例題2 センター試験 地理B 第4問 問4

大問で最も正答率が低かったのが第4問の村落・都市に関する問題で、村落・都市の形態の模式図を使った問題が細かな知識が求められる問題であったこともその要因と考えられる。第4問の中で最も正答率が低かったのが、問4のロサンゼルスにおける人種・民族の居住地に関する例題2である。図にはCBDの位置が示されているだけなので、ロサンゼルスの市街地に関するイメージがないと判断にやや迷う問題であるが、帝国書院の教科書『新詳地理B 初訂版』p.155 (図1)、地図帳『新詳高等地図 初訂版』p.68 (図2)にはロサンゼルスの人種・民族の住み分けを示す図が示されている。大都市の内部の地域差に関する分布図を判読する問題は、2007年地理B本試(札幌市)、2004年地理B追試(ボストン市)など、近年のセンター試験の頻出テーマである。



▲③ ロサンゼルスの人種・民族の住み分け (Geographische Rundschau 1996, ほか)  
図1 『新詳地理B 初訂版』p.155

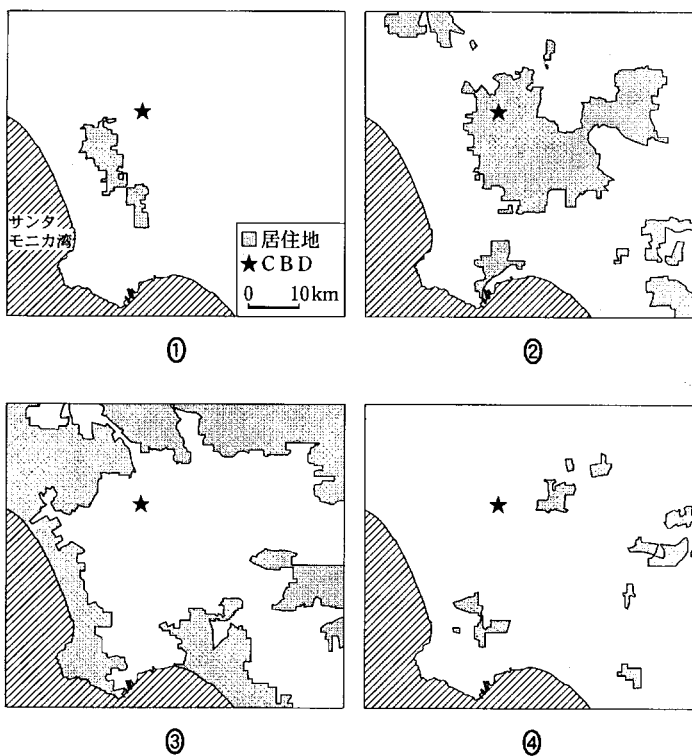


図2 『新詳高等地図 初訂版』p.68

問4 世界的な大都市の多くでは、人種・民族の分布に特徴がみられる。次ページの図3は、ロサンゼルスにおけるいくつかの人種・民族の居住地\*を示したものであり、①～④はアジア系、黒人、白人、ヒスパニックのいずれかである。それぞれの人種・民族の居住の特徴を説明した次の文を読んで、ヒスパニックに該当するものを、図3中の①～④のうちから一つ選べ。 24

\*居住地は各人種・民族が各統計区の人口の50%以上を占める範囲。

- アジア系    かつては都心に隣接して多く居住していたが、所得水準の向上を背景に居住地の郊外化が進んでいる。
- 黒人        低所得を背景に、かつては都心部に多く居住していたが、新たな移民の流入により、その居住地は縮小している。
- 白人        高所得を背景に、人口密度の低い戸建て住宅地区に多く居住している。
- ヒスパニック    1970年代以降の人口増加と低所得を背景に、家賃や通勤などの経済的負担の少ない地区への居住が拡大している。

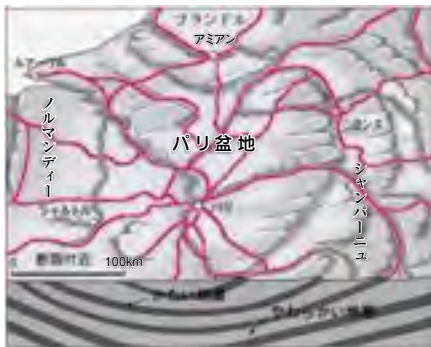


統計年次は2000年。  
アメリカ合衆国センサス局の資料により作成。

図3

■得点差のつく問題

受験生のレベル別正答率の差が大きかった問題が、パリ盆地のケスタ地形を答えさせる例題3で、上位層（偏差値55.0以上）では83%、中位層（54.9～45.0）では49%、下位層（44.9以下）では18%であった。『新詳地理B 初訂版』p.15（図3）には同様のパリ盆地の模式図が掲載されているが、教科書をきちんと学習したかどうかで得点差につながったと考えられる。この問題は高卒の正答率が71%であるのに対し、現役の正答率は53%で両者の差も大きい問題であった。



▲③ パリ盆地のケスタ パリを囲んで外側に急斜面を向けたケスタの列が並ぶ。

図3 『新詳地理B 初訂版』p.15

上位層の中でさらにレベルによる差が大きかった問題が例題4で、Aレベル（偏差値60.0以上）が71%、Bレベル（59.9～55.0）が46%であった。経済的水準などから識字率の低いクをカンボジアと判断したものが多かったようだ。ここではイスラム圏において女性の社会進出が進んでいないことが決め手となる。昨年度のセンター試験でもっとも正答率が低かった問題も国別の女性議員の割合を判定する問題（2008年度地理B本試）であった。

例題3 センター試験 地理B 第1問 問8

問8 次の図5は、図1中のX地点付近でみられる地形を模式的に示したものである。この地形を説明した文として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 8

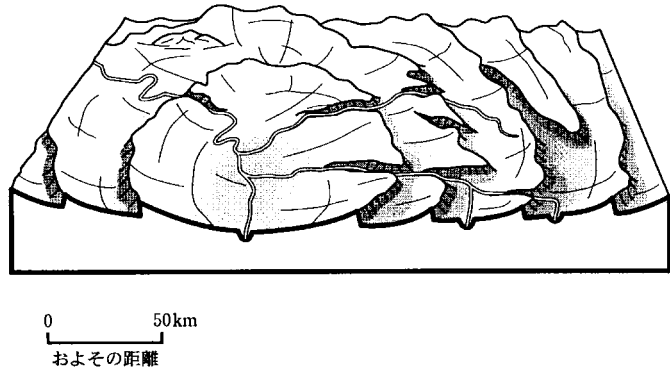


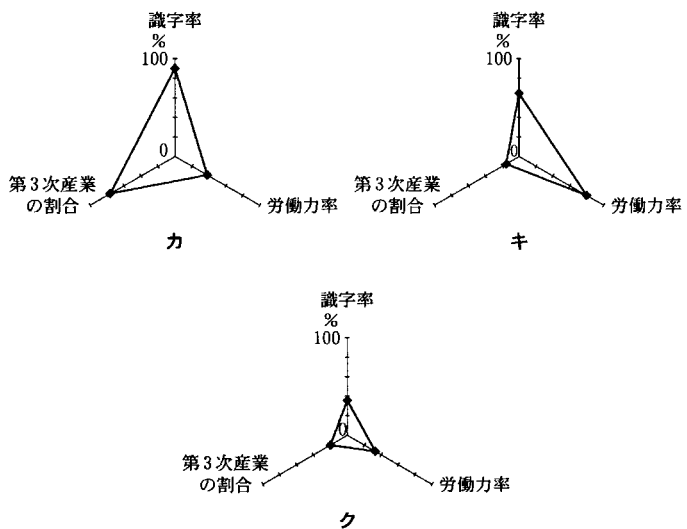
図5

- ① 活断層に沿って河川が侵食した直線状の谷地形がみられる。
- ② 石灰岩が化学的に侵食されたなだらかな階段状の台地がみられる。
- ③ 地質構造を反映した非対称な断面をもった丘陵地がみられる。
- ④ 火山噴火によって流出した溶岩流からなる台地がみられる。

例題4 センター試験 地理B 第6問 問5

問5 女性の社会進出は各国の経済状況や宗教、文化などの影響を受ける。次の図4中のカ～クは、カンボジア、パキスタン、メキシコのいずれかの国における女性の識字率、女性の労働力率\*、女性労働人口に占める第3次産業の割合を示したものである。図4中のカ～クと国名との正しい組合せを、次ページの①～⑥のうちから一つ選べ。 37

\*労働力率は、15歳以上人口に対する労働力人口の割合。



統計年次は、女性の識字率と女性労働人口に占める第3次産業の割合が2000年～2004年のいずれか、女性の労働力率が2004年。  
World Development Indicators などにより作成。

図4



### 3. 国公立二次・私大の出題傾向

#### ■地形図の読図が頻出

地形図の判読問題は、大学によって出題頻度が異なるが、1980年以降の29年間に3回しか地形図を使った問題が出題されなかった東京大でも7年ぶりに出題されるなど、全体に増加傾向にある。しかも、単純な地図記号の判読などではなく、等高線から地形がイメージできるかといった地形図判読のスキルに関する出題が多くみられ、**例題5**では視点によって山頂のピークが二つに見える場合と重なって一つに見える場合があることを判定させている。**例題6**では山地の鳥瞰図を示し、地形図から視点の位置を判定させるものである。視点（写真では撮影点）を問う形式は目新しいものではないが、フリーソフトのカシミールなどを用いて鳥瞰図の作成が容易になったこともあり、このような等高線から景観をイメージさせる出題が増えている。

#### 例題5 東京大 第1問 設問B(2)

次ページの図3は、山頂部を含む、火山を示した地形図である。この図を見て、以下の小問に答えなさい。

(2) 晴天の日中に、図中のX地点(標高404.6m三角点)およびY地点(標高578.0m三角点)から、この火山の山頂方向を眺めた場合、山頂付近の見え方にはどのような違いがあると考えられるか。1行で述べなさい。

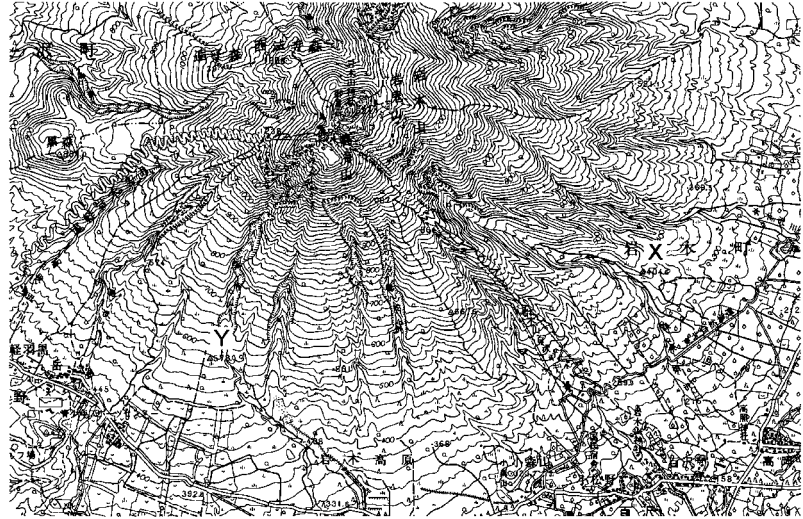


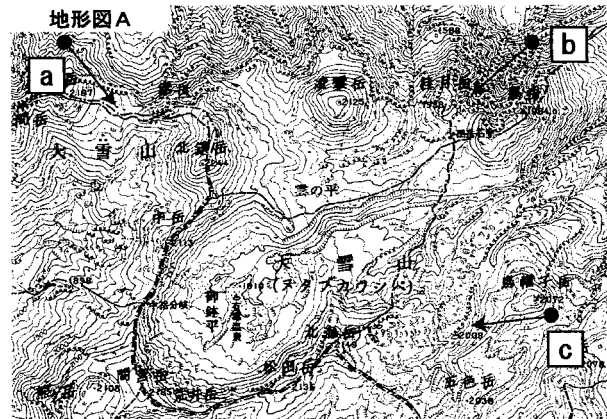
図3

#### 例題6 北海道大 ① 問1 (立体1・地形図Aのみ)

問1 立体図1～3は、地形図A～Cの鳥瞰図である。各立体図は、地形図のいずれの地点からみたものか、立体図1については地形図Aの地点a～cから、立体図2については地形図Bの地点d～fから、立体図3については地形図Cの地点g～iから、それぞれ1つ選び、記号で答えよ。ただし、各地点の矢印は眺める方向を示しており、立体図は標高3,000m程度からみた景観である。

(\*立体図2、3および地形図B・Cは省略。)

立体図1



■総合的な地球的課題：水資源

2006年にメキシコで開催された第4回世界水フォーラム、2007年日本で開催された第1回アジア・太平洋水サミットなどの影響もあって、水資源に関する問題も目についた。

例題7は水資源賦存量の分布図を用いた問題であり、センター地理B(本試)や獨協大でも同様の分布図を用いた出題がみられた。また青山学院大では地下水に関する大問がみられた。水資源は人口・食料問題、都市・居住問題、環境・エネルギー問題いずれにも関係し、水争いは民族・領土問題にも関わるため、総合的な地球的課題として今後も出題が注目されるが、『新詳地理B 初訂版』p.275では〈トピック水をめぐる問題〉図4で多面的に解説されている。



図4 『新詳地理B 初訂版』p.275

例題7 京都大 Ⅳ 問(1)~(5)

右ページの地図は、各国1人あたりの水資源賦存量(国内の降水量から蒸発散量を差し引いた値)を、1,000 m<sup>3</sup>未満、1,000 m<sup>3</sup>以上~3,000 m<sup>3</sup>未満、3,000 m<sup>3</sup>以上~10,000 m<sup>3</sup>未満、10,000 m<sup>3</sup>以上の4つに区分して示したものである。また、右ページの表は、地図中に実線で囲んだ6か国の統計を示したものであり、e~gは生活・農業・工業のいずれかの用途に該当する。これらの地図と表を見て、次の問(1)~(6)に答えよ。字数制限のある問については、句読点も字数に含めよ。

問

- (1) 地図中のあ~えのうち、①1,000 m<sup>3</sup>未満と、②3,000 m<sup>3</sup>以上~10,000 m<sup>3</sup>未満に該当するものを、それぞれ選んで記号で答えよ。
- (2) 表中のBとDに該当する国名をそれぞれ答えよ(解答欄①)。また、fに該当する用途を、生活・農業・工業のなかから選んで答えよ(解答欄②)。
- (3) 日本では20世紀後半より、いくつかの現象が原因となって地下水の利用が制約される事態が生じた。その現象を2つ挙げよ。
- (4) 「改善された水源」(公共の水道ないし安全な地下水・湧水・雨水貯留)の乏しい地域では、水の運搬に労力を要するばかりでなく、大きな問題が生じやすい。それはどのような問題か、30字以内で答えよ。
- (5) 表中のA国やC国では、灌漑された農地がある現象によって荒廃する景観がみられる。その現象とは何か、答えよ(解答欄①)。また、灌漑の進展に伴い、C国と隣国の国境に位置する湖にどのような問題が生じ、そしてその結果、湖の周囲の産業にはどのような影響が生じたか、40字以内で答えよ(解答欄②)。



|  | 日本  | フランス | A国  | B国    | C国    | D国 |
|--|-----|------|-----|-------|-------|----|
| 改善された水源を利用して<br>いる人口の割合(%)                 | —   | —    | 100 | 95    | 85    | 77 |
| 1年間の1人あたり地下水<br>取水量(m <sup>3</sup> )       | 101 | 104  | 143 | 899   | 334   | —  |
| 塩水・廃水の淡水化能力<br>(千m <sup>3</sup> /日)(1996年) | 638 | 29   | 82  | 5,006 | 31    | 1  |
| 1年間の1人あたり水使用<br>量(m <sup>3</sup> )         |     |      |     |       |       |    |
| e  | 124 | 502  | 125 | 10    | 48    | 7  |
| f  | 435 | 66   | 941 | 758   | 2,185 | 96 |
| g  | 137 | 106  | 184 | 83    | 111   | 50 |
| 農地の総面積に占める灌漑<br>面積の割合(%)                   | 65  | 10   | 5   | 42    | 88    | 1  |

注) 「改善された水源」とは、公共の水道ないし安全な地下水・湧水・雨水貯留を意味する。—は統計が作成されていない項目である。

資料：地図・表ともに『水の世界地図』。数値は特に注記のあるものを除き、いずれも2000年。

■新しい動向に対応：

バイオ液体燃料、BRICsなど

2008年の原油価格の高騰やポスト京都議定書に向けた動きは、バイオ液体燃料への関心を高め、とうもろこしなどの価格上昇を招いたが、入試問題でもこのテーマは頻出しており(表5)、地理が現実の世界を対象とした、まさに生きている教科であることを示している。

また、貿易上弱い立場にある発展途上国の生産者の権利を強化し、持続的な発展を支えようとするフェアトレードに関しても、愛知教育大や立命館大でコーヒーを例に出題されたが、こうした新しい動きについては、『新詳資料 地理の研究』のトピック(p.201)が参考になる。

一方、2008年の世界同時不況の影響で経済成長にややかげりをみせたものの、依然として消費市場としても注目されるBRICsに関する問題も最近みられるようになり、2009年度は明治大、関西大などで出題された。とくに中国とインドに注目する問題もあり、首都大東京では、在外インド人の分布を示した表と華人(中国系移民)の分布を示した分布図から、両者の分布の特徴を論述させる問題が注目される。在外インド人の分布については、『新詳高等地図』p.26(図5)に示された分布図がおおいに参考になる。



図5 『新詳高等地図』 p.26

表5 バイオ液体燃料に関する論述問題

| 年   | 大学    | 設問内容  |
|---|-------|---|
| 2008  | 東京学芸大 | ■バイオエタノールの生産量の増大が人々の生活や産業に及ぼす影響。                              |
|   | 京都大   | ■先進国を中心に自然エネルギーや可燃性再生可能エネルギーの開発が積極的に進められている意義。                |
| 2009  | 福井大   | ■作物(とうもろこし)の価格変動グラフをもとに、この作物に関わる近年の情勢の説明。                     |
|   | 愛知教育大 | ■最近エネルギー源としてある作物(とうもろこし)が注目された結果生じた世界的影響。                     |
|   | 京都大   | ■とうもろこしの新しい利用法が注目される理由と問題点。                                   |
|   | 大阪大   | ■自動車燃料としてバイオエタノール、バイオディーゼル製造が各国で政策的に推進されている理由とそれとともなって発生する問題。 |
| 論述形式以外では、高崎経済大、青山学院大、国士館大、駒澤大、法政大、立命館大などでも、バイオ液体燃料の原料を問う問題などが出題された。 |       |   |

表6 地図の歴史・投影法に関する問題

| 大学        | 扱われた図法と出題内容   |
|-----------|---|
| 名古屋大      | ■北極点を中心とした心射図法の地図にロンドンとイルクーツクを結ぶ大圏航路を記入する。■夏至の時期に1日中太陽が沈まない範囲を記入する。   |
| 福井大       | ■メルカトル図法、正距方位図法、メルワイデ図法の特徴を整理する。  |
| 首都大東京(文系) | ■正距円筒図法(正方形図法)の特徴を述べた文の正誤判定。  |
| 首都大東京(理系) | ■日本の古地図における日本を構成する国の大きさ・形と地図作成者のもっていた情報や意図との関係を説明。■日本の古地図に示された主要道路から読み取れることの説明。■世界の古地図で日本についての記載情報が詳しい地域とその内容の説明。■世界の古地図で周囲に枠線、図中の楕円枠内に目盛りが示されている理由。■両古地図からみた地図の一般的な性質。 |
| 中央大       | ■メルカトル図法で直線で示されるもの。■各図法の説明文の正誤判定(メルワイデ図法、サンソン図法、グード図法)。   |
| 学習院大      | ■各図法について述べた文章の正誤判定(バビロニアの地図、トレミー図法、TOマップ、正射図法、メルワイデ図法、サンソン図法、グード図法、正積図法、正角図法、正距方位図法)。   |
| 國學院大      | ■地形図の投影法(ユニバーサル横メルカトル図法)の判定。  |
| 立正大       | ■メルカトル図法の利用法に関して。   |
| 専修大       | ■各図法について述べた文章の正誤判定(バビロニアの地図、イスラムの世界地図、TOマップ)。■東京を中心とした正距方位図法(東京から最も時差の大きな地点、白夜、極夜が見られる地点)。  |
| 追手門学院大    | ■メルカトル図法(等角航路の判定)。■正距方位図法(方位の判定)。   |
| 関西学院大     | ■各図法について述べた文章の正誤判定(ヘカタイオスの世界図、メルワイデ図法、正距方位図法、メルカトル図法)。  |



■古くからのテーマ：

例題 8 首都大東京（理系） 問 1～5

地図の歴史と投影法

最近の入試問題ではほとんど扱われなくなった地図の歴史や地図投影法に関する出題が、なぜか2009年度は多くみられた（前頁、表6）。しかし、設問内容は各図法についての知識を問う単純な形式の問題が多く、新学習指導要領でもより重要性を増している地理的技能に結びついた設問とは言い難い。やや異色であったのが、投影法は扱ってはいないが首都大東京（理系）の問題で、14世紀の日本の地図（行基図）と16世紀にヨーロッパで作成された図の日本部分を示し（例題8）、地図作製者のもっていた情報や意図を考えさせる問題である。地図に示された記載情報の詳しさの違いから作成の目的の違いを考えさせる、思考力を試す問題といえる。

2 地図に関する次の文章を読み、次ページの図2と図3をよく見ながら、下の問い(問1～5)に答えなさい。解答は、いずれも解答欄の範囲内に記入すること。

地図には、それが作られた時代の世界観や空間認識が反映されている。図2は14世紀に日本で作られた日本地図の模写であり、当時の日本を構成する68か国が描かれている。これは、日本の概略を示す地図として、一部の人が利用していた。図3は16世紀末にヨーロッパで作られた日本地図(地図の上側と左側を一部削除)である。これは、当時の西洋人が世界の諸地域を理解するために利用していた。図2と図3の内容は異なるが、それは地図作成者のもっていた情報や意図によって異なる。

問 1 図2では、大半の国の大きさや形は似ている。なぜ、このような簡略な表現になったと考えられるかを答えなさい。

問 2 図2の地図上の二重線は主な交通路である。当時の日本の国土の構成と関連づけて、この交通路から何が読み取れるかを答えなさい。

問 3 図3の地図上には、記載情報が比較的詳しい地域と、記載情報に乏しい地域がある。記載情報が比較的詳しい地域の例をあげ、どのような記載情報が詳しいかを具体的に答えなさい。

問 4 図3の右端と下端の外枠にある黒と白が交互する線は何を示すか、また、図3の右下の楕円枠内にある数字が付された目盛りは何を示すか、それぞれ答えなさい。さらに、こうした線や目盛りが表示された理由として、何が考えられるかを述べなさい。

問 5 日本を描いた図2の地図と図3の地図の違いを具体的にあげながら、地図のもっている一般的な性質について論じなさい。

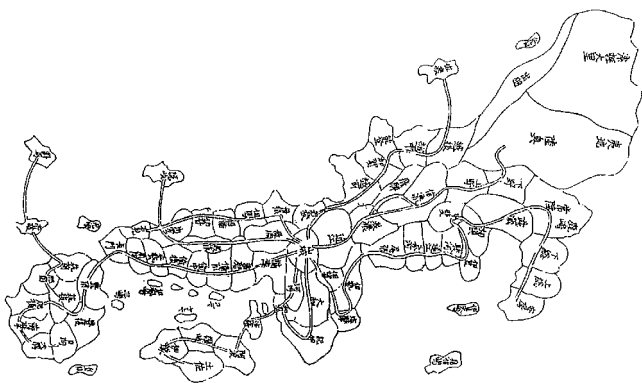
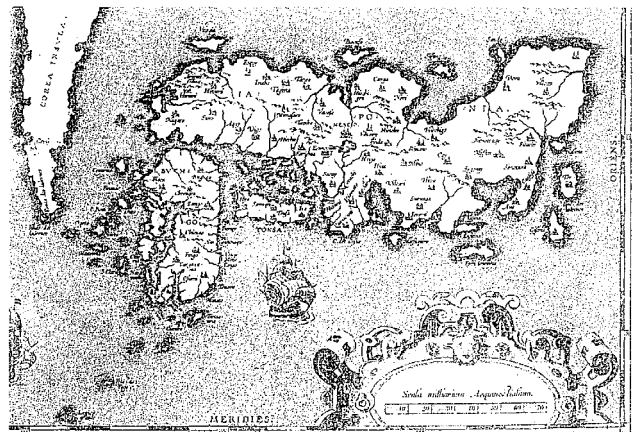


図2 応地(1996)による。





#### 4. 論述問題の形式とテーマ

2009年度の国公立大二次試験の論述問題の設問内容(表7-1・表7-2・表8)をみると、基本的事項の説明、図表の判読とその背景説明、成因・要因の説明など大学によって形式は多様だが、全体的に50~100

字程度の問題が中心で、論述問題の数は多いが一橋大、筑波大、大阪大などを除くと、1問あたりの字数は短くコンパクトな解答が求められる場合が多い。帝国書院の教科書・地図帳の各図版には、簡潔な解説や考察、読図、課題など判読の指針が示されているものも多くあり、論述問題の解答の手がかりに活用できる。

表7-1 国立大二次の論述問題の分量とテーマ

|             | 論述問題数 | 総字数      | 1題あたり平均字数    | テーマ(設問内容)  |
|-------------|-------|----------|--------------|--|
| 北海道大        | 8     | 660字程度   | 80字(60~90)   | ■地形図読図(水域が海か湖かの判定理由、集落地の特徴、農地と地形の関係)。■サハラ砂漠南縁の砂漠化の人為的要因。■ワジの説明。■やませの特徴と被害の説明。■ユーラシア大陸の東西2都市(ピョンヤンとリスボン)の気候の違いをもたらす風の説明。■韓国のセマウル運動の説明。  |
| 筑波大(地球学類)   | 3     | 900字     | 300字(300)    | ■新旧地形図読図(宅地化が進んでいない地域と進んだ地域の差について、自然的・人為的観点から説明)。■土壌断面図から分布地域の気候条件、植生および主要産業の特徴を説明。■ケニア、スウェーデン、日本の高齢者人口割合の変化グラフ、人口に関する統計表から、現代世界における人口問題の特徴とその背景を説明。   |
| 筑波大(地球学類以外) | 4     | 1600字    | 400字         | ■新旧地形図読図(宅地化が進んでいない地域と進んだ地域の差について、自然的・人為的観点から説明)。■地球がすべて海で覆われている場合の大気循環に比べ、海陸分布の影響を受けた実際の気候の異なる点の説明。■日本における国内旅客輸送の利用交通手段の変化にともなう消費行動と商業地域の変化の説明。■19世紀以降の西ヨーロッパにおける農業の特徴とその変化の説明。   |
| 東京大         | 15    | 990字     | 66字(30~120)  | ■赤道付近とユーラシア大陸・北米大陸北部の森林の名称と樹種構成の違い。■森林がほとんどなく年平均流出量が少ない地域で年平均流出量が少ない理由。■年平均流出量が多く、森林が少ない地域で森林が少ない理由。■地形図読図(火山斜面でみられる高地と低地の地形の違いとその理由)。■地形図読図(地点による山頂の見え方の違い、自然環境を生かした観光開発の特徴)。■国別の食料自給率から国名を判断した理由。■オランダの国土の特性と関連した農業の特徴。■都道府県別食料自給率からみた農業の特徴。■インドネシアが米の生産量を増大させた理由。■中国で大豆輸入量が急増している理由。■日本の産業別従業者数が社会保険・福祉・介護事業で増加し、総合工事業で減少している理由。■県別市町村数が大都市圏で変化が小さく、地方圏で減少した理由。■大都市圏の都心と郊外での生産年齢人口と老年人口の推移の特徴。  |
| 東京学芸大       | 8     | 780字程度   | 100字(60~150) | ■亜寒帯気候が南半球にみられない理由。■地中海沿岸で冬に雨季、夏に乾季となる理由。■ノルウェー海岸でみられる地形の形成過程と地形の特徴の説明。■輸入代替型工業化と輸出加工区の説明。■インナーシティ問題とスプロール現象の説明。■インドにおける米生産の変化の特徴とその背景。■アメリカのIT企業がインドに注目する理由。■所得階層別の世帯数割合と耐久消費財の普及状況からみたインドの経済発展の問題点。  |
| 一橋大         | 10    | 1000字    | 100字(50~200) | ■EUの「ワイドヨーロッパ」構想のはたしている役割。■ヒト・モノ・カネの透過性が著しく制約された国境周辺で地域経済が停滞した理由。■「ユーロリージョン」で国境をまたぐ局地的な交通手段を整備することが重要な政策となっている理由。■EUの既存加盟国で、新規加盟国からの労働力移動の国境透過性を認めた国と認めない国が、それぞれ国境透過性のコントロールを自国の経済競争力とどう結びつけているかの説明。■知床半島の世界遺産指定に関し、国際自然保護連合が環境保全の範囲として根室海峡をまたぐ地域について示した認識と、両国の同意による保全促進のための平和公園が実現していない理由。■近年生産量が増加している天然ゴムの価格が上昇している理由。■マレーシアが天然ゴムの生産量を減少させた理由。■タイ、インドネシア、マレーシアのうち天然ゴムの生産量の季節変動が他と異なる国とその理由。■タイの天然ゴムの国内消費量が急増した理由。■重量減損原料から普通原料に切り替えた場合の新工場の最適立地点の判定とその理由。 |
| 新潟大         | 8     | 490~640字 | 70字(40~120)  | ■アルザス・ロレーヌ地方をめぐるドイツ・フランス間の係争について資源立地に注目して説明。■ロンドンやハンブルクに共通する河川交通の条件の優位性。■「ヨーロッパ・メガロポリス」が存在感を増してきている背景。■シカゴに世界の農作物価格に大きな影響を与える取引市場が発達した理由。■『怒りの葡萄』に示されたダストボウルによる農民の悲劇のような土地の荒廃を引き起こす原因。■地形図読図(天井川の形成過程、草津宿の江戸時代の繁栄)。■1960~2005年の草津の人口増加の理由。   |
| 福井大         | 8     | 640字程度   | 80字(20~240)  | ■地形図読図(摩周湖の成因、河川の出入りがないにもかかわらず水位が保たれる理由、透明度が高い理由)。■作物(とうもろこし)の価格変動グラフをもとに、この作物にかかわる近年の情勢の説明。■地図投影法(メルカトル図法、正距方位図法、モルワイデ図法)の特徴。■国別の総人口、GNPを示したカルトグラムから読み取れること。  |

表7-2 国立大二次の論述問題の分量とテーマ

|                | 論述<br>問題数 | 総字数         | 1題あたり<br>平均字数     | テーマ（設問内容）   |
|----------------|-----------|-------------|-------------------|---|
| 愛知教育大          | 8         | 650字<br>程度  | 80字<br>(20~250)   | ■地形図読図（南大東島中央部の池の成因、地形断面図を描き地形と土地利用を解説）。■最近エネルギー源としてある作物（とうもろこし）が注目された結果生じた世界的影響。■1970年当時のコーヒー輸出の立地要因を人文・自然の両条件から説明。■1970~2000年のコーヒー輸出の立地の変化を説明。■アフリカ諸国のコーヒーのモノカルチャー経済の形成理由。■コーヒー価格暴落時のウガンダからイギリスまでのコーヒー流通価格の変化を示す資料をもとに、コーヒー危機をもたらした生産・消費の仕組みを考察。■フェアトレードの説明。                |
| 名古屋大           | 12        | 1200字<br>程度 | 100字<br>(30~180)  | ■地形図読図（扇状地の判定と土地利用の特徴および地形の特性、段丘化した古い扇状地に針葉樹林が広がる理由）。■ECSCの設立目的と時代背景。■ヨーロッパの海域別漁業生産量の特徴。■EU域内の人やものの移動を活発にすることを目的とした二つの施策。■EUの農業政策の説明。■東南アジアにおけるプランテーション農業の特色。■モノカルチャー経済が経済的に不安定な理由。■輸出加工区が工業化に果たした役割。■ノルウェーの海岸付近の気候と地形の特徴。■地図中の範囲（北極点を中心とする北緯60度以上）に最も広く分布する植生と関係した環境問題。      |
| 京都大            | 13        | 680字        | 50字<br>(30~80)    | ■衛星写真から判読できるエルサレム市街地の特徴。■新旧地形図の判読（河岸段丘の判定と成因、市場町の判定と根拠、主要道路の特徴と変化、工場の立地の特徴）。■小麦の輸出量割合が大きい理由。■とうもろこしの新しい利用法が注目される理由と問題点。■改善された水源の乏しい地域で生じやすい問題。■ビール醸造業の立地指向とその理由。■北米大陸西部に多数の国立公園が分布する理由。■アラスカ北部、ロッキー山脈で生じている気候変動に関係すると考えられる現象。■先端産業が立地するアメリカ合衆国西部の4都市のうち、他の都市と比べたフェニックスの産業の特徴。 |
| 大阪大<br>(文学部)   | 4         | 800字        | 200字<br>(200)     | ■自動車燃料としてバイオエタノール、バイオディーゼル製造が各国で政策的に推進されている理由とそれにもなつて発生する問題。■日本で穀物自給率が低下する一方で、生産調整がおこなわれ休耕田・耕作放棄地が増大している背景。■海上・海中・海底に区分した海洋の利用と開発。■海洋の利用と開発に関する問題と課題。   |
| 大阪大<br>(外国語学部) | 4         | 600字        | 150字<br>(100~200) | ■自動車燃料としてバイオエタノール、バイオディーゼル製造が各国で政策的に推進されている理由とそれにもなつて発生する問題。■日本で穀物自給率が低下する一方で、生産調整が行われ休耕田・耕作放棄地が増大している背景。■モノカルチャー経済のかかえる問題点。■輸入代替型工業化の抱える問題点。   |
| 和歌山大           | 13        | 1200字<br>程度 | 100字<br>(90~120)  | ■地形図の読図と比較（河川地形の差違と要因、旧流路の判読、果樹園の立地と土地条件、集落立地・形態、人間生活と海洋のかかわり）。■発展途上国の急激な人口増加の要因。■焼畑農業における人口増加に伴う問題。■傾斜地に作られた水田の名称と日本での近年の動き。■酪農における生乳と乳製品の産地分化と立地条件の違い。■プランテーション農業の問題点。■資本主義経済の発達によりヨーロッパの小国が受けた不利益。■ECからEUに発展したことによる変化。■東ヨーロッパ諸国のEU加盟が遅れた背景。                                |

表8 公立大二次の論述問題の分量とテーマ

|               | 論述<br>問題数 | 総字数         | 1題あたり<br>平均字数     | テーマ（設問内容）   |
|---------------|-----------|-------------|-------------------|---|
| 高崎経済大<br>(前期) | 4         | 250字<br>程度  | 60字前後<br>(50~75)  | ■プランテーション農園の説明。■多国籍企業の説明。■地中海諸国の気候の説明。■遺伝子組み換え作物の説明。  |
| 高崎経済大<br>(中期) | 4         | —           | —                 | ■用語の説明（アポリジニ、フィードロット）。■ポリネシアについての説明。■有機栽培農業の説明  |
| 首都大東京<br>(文系) | 13        | 1200字<br>程度 | 100字<br>(40~150)  | ■地形図読図（河川と地形の関係、農業的土地利用の変化、市街地の起源（城下町）の判断根拠、官公庁の場所の判断根拠、中心商業地区の深刻な問題。■表中の国（産油国）へ1970年代後半からインド系移民が増加した背景と特徴。■IT産業にとってインドの立地上の有利さの説明。■国・地域別にみたインド系移民の職種別割合の傾向と背景。■華人と比較した在外インド人の分布の特徴。■経度に沿った気温の年変化を示す等温線図（アイソプレスグラフ）の判定理由。■月別降水量グラフの判定理由と降水の要因。■1月における2地点（中国北東部・北海道東部）の気圧差と八王子の気温との関係を示すグラフから判読できる両者の関係とその理由の説明。■アラル海への流入水量の減少に伴う湖水の塩分濃度の上昇などに関連して発生している問題の説明。 |
| 首都大東京<br>(理系) | 10        | 650字<br>前後  | 60字前後<br>(20~200) | ■地形図読図（縮尺判定の根拠、火山斜面の地形の特徴、集落形態の違いとその自然・社会条件、野菜栽培発達の自然・社会条件。■日本の古地図における日本を構成する国の大きさ・形と地図作成者のもっていた情報や意図との関係を説明。■日本の古地図に示された主要道路から読み取れることの説明。■世界の古地図で日本についての記載情報が詳しい地域とその内容の説明。■世界の古地図で周囲に枠線、図中の楕円枠内に目盛りが示されている理由。■両古地図からみた地図の一般的な性質。■丘陵地における宅地造成と緑化の方法の変化の理由。   |